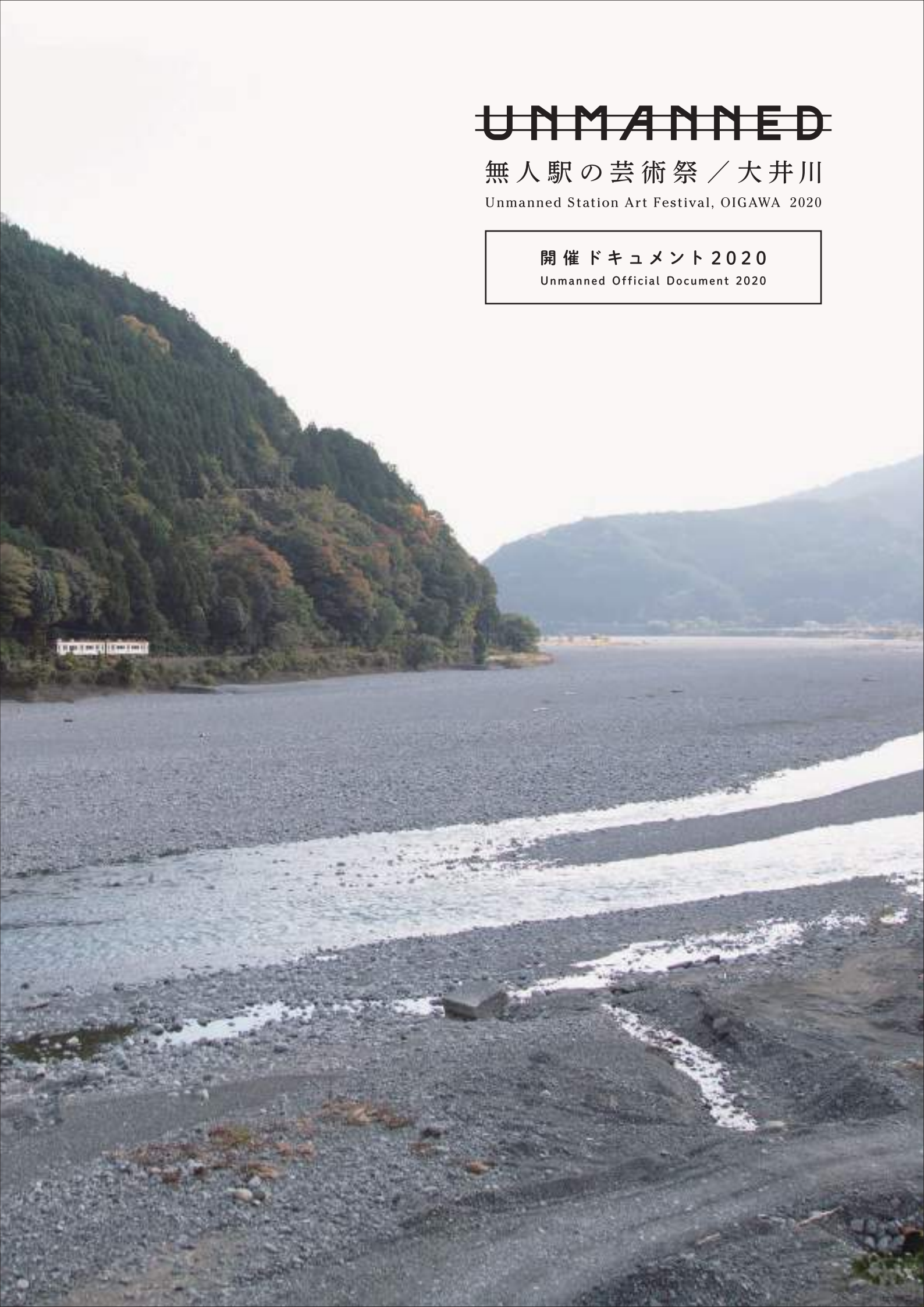
UNMANNED

無人駅の芸術祭／大井川

Unmanned Station Art Festival, OIGAWA 2020

開催ドキュメント2020

Unmanned Official Document 2020



UNMANNED
無人駅の芸術祭／大井川
Unmanned Station Art Festival, OIGAWA 2020

金谷駅 ― 新金谷駅 ― 代官町駅（カトウマキ） ― 日切駅 ― 五和駅 ― 神尾駅（中村昌司） ― 福用駅（夏池篤、木村健世、関口恒男） ― 大和田駅 ― 家山駅 ― 抜里駅（常葉大学造形学部、ヒデミニシダ、北川貴好、木村健世、さとうりさ、江頭誠） ― 笹間渡駅（川根温泉） ― 地名駅 ― 塩郷駅（カトウマキ、クロダユキ、形狩り衆、栗原亜也子） ― 下泉駅 ― 田野口駅 ― 駿河徳山駅（木村健世） ― 青部駅 ― 崎平駅 ― 千頭駅

UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川2020 とは

UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川2020は、「無人駅がひらくと、地域がひらく」をテーマに、大井川鉄道の6つの駅（代官町駅、神尾駅、福用駅、抜里駅、塩郷駅、駿河徳山駅）とその周辺地域をアートの舞台とし、計17日間開催しました。3回目となる今回の芸術祭では、国内外で活躍する13組のアーティストによる作品制作・発表とともに、地域の自然や文化を多くの方々に感じていただいたと考えます。

「無人の」を意味するUNMANNED。住民が減り、生活形態が変化していく中で、無人駅が生まれ、さもマイナスの視点として語られる。その一方、社会全体は、自動化や効率化によりサービスや機能の無人化が推し進められています。

しかし、時代の先進に取り残されたような無人と呼ばれるエリアには、今も変わらず豊かにいきいき暮らす集落の人々がいます。美しい茶畑と里山の風景が広がり、季節ごとの時間が流れ、無人駅は人々の日常を静かに見守っています。私達が忘れかけている大切なものや、豊かな暮らしが無人と呼ばれる場所に息づいています。

今回は、奇しくも新型コロナウィルス感染拡大により、人と人の交流の断絶から発生する無人ということも大きなキーワードとなる芸術祭となりました。

【開催概要】

名称： UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川2020

会期： 2020年3月6日（金）～22日（日）【17日間】

会場： 大井川鉄道無人駅周辺（静岡県島田市及び川根本町）

参加アーティスト： 13組

関口恒男 ／ 江頭誠 ／ さとうりさ
木村健世 ／ 北川貴好 ／ 栗原亜也子
ニシダヒデミ ／ 夏池篤 ／ 中村昌司
形狩り衆 ／ クロダユキ ／ カトウマキ
常葉大学造形学部

主催： NPO法人クロスメディアしまだ

共催： 静岡県文化プログラム推進委員会

助成： 福武財団／島田市文化プログラム助成

協力： 大井川鐵道株式会社

公式ｻｲﾄ： http://www.unmanned.jp/

2019 SHIZUOKA

公益財団法人 福武財団

開催の成果と継続の意義

複数年の開催は大きな変化をもたらしました。「アートってなんだ？」からスタートした地域の人々が、アーティストとの協働による作品制作、滞在支援の協力や、語らいによって生じた大きな変化、それは、アートと地域が共存する喜びでした。

芸術祭においては、アーティストと地域住民は対等の関係の中で、地域をほりおこし、作品としてあらわしていきます。感じ方や捉え方、価値のものさしの異なる両者が、互いに違いを認め合う先に表現が生まれていきます。そのプロセスは、アートの可能性や地域における「関わりしろ」を、私たちが実感する瞬間でもありました。

また同時に、アーティストの表現プランにも変化を感じました。それは、地域の「人々」に焦点が絞られた点です。例えば、さとうりさ氏の「地蔵まえ3（サトゴシガン）」におけるプロジェクトは「パブリックとプライベートの境界はどこ？」という問いから始まり、その問いを求めて大井川沿線の住民のお宅にアート作品が「サトゴ（里子）」に出され、家族の一員として生活を共にすることによってアートと家族の日常の交流を試みました。江頭誠氏の「間にあるもの」は、花柄の毛布を農作業着というアート作品に仕立てて、「一番の魅力は集落の人」だというメッセージのもと、地域の風景の中、地域の人々によるアート作品を着たファッションショーが開かれました。その魅力ある人達が作品になって欲しいという思いが実現しました。

無人駅エリアの日常に暮らす人々とアーティストの創造する非日常の共存が、まさにこの地でしかないアート作品を生みだしました。そして鑑賞者もごく自然にその息吹を感じ取ってくれました。このように今回は、アート表現の中に多くの「人」が関わったことが大きな特徴となりました。

さらなる特徴は、アートが地域の日常の中に「新しい風景」を作りだした、という点です。これまで見たことのない新しい風景に人々が対峙すると、心の風景の内側にそれまでは見えていなかったものが、ぼんやりとあるいは明確に見えてきます。作品は期間が終われば撤去されます。しかし、作品の「新しい景色」は、見た人の心の中に残り続けていくのではないでしょうか。大井川河川敷での関口恒夫氏「レインボーハット」に映し出された虹の美しさ、広大な茶畑でのヒデミニシダ氏の「うかぶ緑側」など、原風景にアートという新たな機能が付加されることで生まれる「新しい景色」が加わりました。それはまた鑑賞者も同様だったと思います。

私たちはこの芸術祭によって、地域とアートの共鳴、原風景との対話を目指していきたいと思っています。それは大井川とその沿線に点在する無人駅と集落、その限りない魅力をアートとつなげたい、と考えています。私たちが忘れかけている大切なものや、「本当の豊かさ」について考え、探すきっかけになるからです。

大いなる感謝とともに

この度、今回の芸術祭の記録をまとめた報告書を作成致しました。取り組みの成果や課題を見直すことで、当芸術祭を通じた様々な交流が、未来に向けた地域づくりの場であり続けるよう、今後とも力を尽していきたいと思います。会期中には近隣の方はもちろん、全国各地から多くの方が足を運んでくださいました。感謝申し上げます。

開幕直前から新型コロナウィルス感染拡大の報道があり、静岡県でも小中学校の休校の事態。そんな中、関連イベントは全て中止としましたが、予防を徹底した上で13組のアーティストによる作品発表は予定通りといたしました。

そうした状況のなか、本芸術祭に参加いただいたアーティストの皆様、作品の制作や管理に協力を頂いた地域の皆様、本芸術祭の開催にあたり多大なるご支援を賜りました全ての関係機関、関係者の皆様、そしてご来場頂いた多くの皆様に対して深く感謝いたします。

アーティストが滞在していたヌクリハウスの灯りが消えて、無人駅エリアは普段の静かな集落に戻っております。関わっていただいたすべての方々へ感謝しながら、次に向けて私達も進んでいきます。次回も楽しみにお待ちいただけましたら嬉しく思います。

NPO法人クロスメディアしまだ
大石歩真、兒玉絵美

【メインビジュアル】

デザイン： 坂本陽一（mots）
撮　影： 鈴木竜一朗
撮影場所： 福用駅

関口恒男

自然素材で作ったドーム型のシェルター内部に水と鏡のプリズムで虹を作る。シェルターは「自分自身を理解するためのダンスを踊る空間」のためのもの。日本のみならず世界各地で「レインボーハット」を制作。

作品タイトル **福用レインボーハット**

設置駅 **福用駅エリア（北五和スポーツ広場）**

水の中に鏡を入れ、太陽の光を反射することによって虹を作り、木の枝などで作った質素なハット（HUT＝小屋）の内部に投影。原始人たちが火を囲んで踊っていたように、虹をよりどころとして、人々が集い、共に遊び学ぶ場をつくった。

木村健世

多摩美術大学建築科卒業。「まち」にさまざまなプログラムを挿入し場を再解釈するプロジェクトを手がける。近年は数多くのストーリーを聞き取りによって採取し場を文庫として捉える作品を多数展開している。

作品タイトル **無人駅文庫　抜里**

設置駅 **抜里駅･駿河徳山駅･福用駅（ホーム）**

駅に佇む、人々によって紡がれた数々のストーリーを文庫目録に収録。
無人駅という場を、様々な時代・様々なストーリーと重ねて体験したときにあなたの目の前にはどんな風景が広がるだろうか。
抜里編に加えて過去に作られた2作品（福用編、駿河徳山編）も同時に展示。

さとうりさ

作品を用いたパフォーマンス「りさ・キャンペーン」を国内外で実施、独特のコミュニケーション手法で注目される。ほかに絵本制作、教育番組のアートディレクターなど活動は多岐に渡る。

作品タイトル **地蔵まえ 3 ／サトゴシガン**

設置駅 **抜里駅**

「パブリックアートもお地蔵さんのように地域に馴染むのは可能か」
というテーマで3回目の参加となる今年は、ご家庭でオブジェ作品を預かってもらうプロジェクト「サトゴシガン（里子志願）」を20年ぶりに実施。
果たしてパブリックとプライベートの境界線はどこに？

TOPICS

芸術祭開幕まで、大井川沿線の8軒のお宅に作品が「サトゴ（里子）」として数日間生活を共にしました。
様々な形で愛着を持たれ、「おもちちゃん」「おにんぎょうさん」などたくさんの名前も与えられてかえってきました。

江頭　誠

戦後の日本で独自に普及してきた花柄の毛布を主な作品素材として用いて、大型の立体作品、空間性を活かしたインスタレーション作品を発表。第18回岡本太郎現代芸術賞で特別賞受賞。

作品タイトル　**間にあるもの**

設置駅　**抜里駅エリア（ぬくりプラザ）**

旅先で現地の方から“もの”をいただくと、家に帰ってその人のことを思い出しながら、その“もの”を愛でることがよくある。また道端に落ちている“もの”を見つけたときも、その“もの”がそこにある経緯や、“もの”の背景にいる誰かを想像する。
誰かと自分の間に”もの”があることで新たなコミュニケーションが生まれるきっかけをつくった。

TOPICS

特別プログラム　「動く作品に会いに行こう　ファッションウォーク！」　3月7日（土）／ 3月15日（日）

会期中、2回にわたり集落の人が作品を身に纏い練り歩きました。
風景と動く作品が一体となり、楽しそうに動く作品（集落の人達）に多くの人がシャッターを押しました。

ヒデミニシダ

1986年北海道出身。ノルウェー王国ベルゲン芸術大学大学院を修了。風景との対話を楽しむ環境芸術作品を多く手がける。

作品タイトル　**境界のあそび場／うかぶ縁側**

設置駅　**抜里駅エリア（駅から広がる茶畑）**

大井川流域の地域では、対岸との人の行き来、物資の運搬、情報の伝達といったことに様々な工夫がされてきた。吊り橋をかけたり、ロープを渡したり、山の上から遠くへ目を凝らしたり。
こうした「彼方への意識」を楽しむ場として、茶畑の上空に大きな縁側を立ち上げ、ゆっくりと、どこか彼方を眺めてみる時間を提供した。

北川貴好

1974年大阪府生まれ。既存のプレハブ家屋に無数の「穴」を開ける、公園に大量の古タイヤを持ち込むなど、建築的アプローチで空間に介入し、風景を再認識させる作品を制作。

作品タイトル　**茶屋せんべや**

設置駅　**抜里駅エリア・せんべや**

（㈲小玉工業旧工場・島田市川根町抜里963）

駄菓子屋、鋳型工場という経緯を経た元工場。地元の人には今も「せんべや（せんべいや）」呼ばれる場所で、近くに流れる小川を引き込みお茶を飲む場を作り、かつて集いの場であったこの場所を茶屋として使った。映像では、集落の人などが巨人として出演し、せんべいやが人が集う場所だった記憶を語る。鋳型の砂が流れる作品も組み合わせ、この場所の過去の流れをインスタレーションとして再構成した。

栗原亜也子

「オセロゲーム」のルールを用いて、二色のドットを塗り重ね増殖させていくペインティング作品や絵画と実物モチーフを組み合わせた写真作品シリーズなど、「他者との関係性」や「領域と侵犯」を意識した作品を制作。

作品タイトル **かみさまたちのまちじかん**

設置駅 **塩郷駅エリア（大井川河川敷・久野脇親水公園キャンプ場広場・塩郷駅）**

塩郷駅から吊り橋をわたり、久野脇の坂道をのぼって佐澤薬師堂から眺めることができる大井川の「神の瀬」。神無月に出雲に向かう神様が待ち合わせした場所だという。“もし、かみさまたちがその待ち時間に現代のボードゲームに興じていたら”という想像のもと、久野脇エリアや駅の待合室に「あそびの痕跡」をつくった。

TOPICS

公開制作＆ワークショップ 「春の花咲く原っぱにふんわりならべる『かみオセロ』」 3月7日（土）／ 3月15日（日）

川根本町久野脇親水公園キャンプ場で、
再生紙やお茶の葉を材料にした手すきの紙による「かみのもと」を塗り重ねていく形式でオセロゲームを行いました。
雨風にさらされながら、色合いが変化していくオセロのコマにより、キャンプ場の景色が変化していきました。

夏池篤

三重県生まれ 愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了。常葉大学造形学部教授。現代日本美術展（東京／1985）日・タイ彫刻シンポジウム（チェンマイ／2004－05）ナメディ城野外美術展（ドイツ／2005）他出展多数。

作品タイトル **暖まっていきなよ！**

設置駅 **福用駅（駅舎）**

エアコンの冷媒管を使って酩酊状態にある人物を形作り大井川鉄道のベンチに配したもの。暖房運転中のエアコンは、吹き出し口から出る暖気と、加熱された冷媒管により周囲を温める。この芸術祭を見学に来られた方にアート作品として展示すると同時にホットなサービスを提供する作品。

中村昌司

島田市川根町出身。東京藝術大学卒業。2011年から「あかいささふね」の活動開始。浜松Open Art2019浜松城公園野外アート展実行委員長。

作品タイトル **黒いオッパイ**

設置駅 **神尾駅**

かつてこの大井川すじに1万人を越える朝鮮の人たちが働いていたという。
ダムの建設から発電所の工事、鉄道の敷設など危険をともなう工事によって多くの義性者も出た。黒いオッパイドームの中の赤い船に乗り彼らのことに思いを馳せる空間をつくった。

形狩り衆

代表 山本直の呼びかけに応じて集まった無名の彫刻型取りの技術者集団。山本は、静岡県立美術館学芸課主査（1996～98）としてジョージ・シーガル展を担当し、ライフマスクを制作するワークショップを企画、自ら講師を務める。

作品タイトル **顔の家**

設置駅 **塩郷駅エリア（久野脇地区・魚屋アト〈※元魚勇久野脇店〉）**

「顔の家」は、この地域に住む人々が互いを愛しみ、「ライフマスク」をその唯一無二の存在証明として永遠に残そうとするもの。ワークショップで、お互いの顔から石膏で型を取り、出来上がった「ライフマスク」を集めて「顔の家」に保管し芸術祭会期中には一般に向けて公開展示した。

TOPICS

「顔の家ワークショップ」　2月8日（土）／ 2月23日（日）

会期前、2回にわたり大井川沿線の人達の顔の型どり（ライフマスク）を行いました。2人1組となり、互いの顔の型を取ることで相手への慈しみや感謝の気持ちが生まれていきました。

カトウマキ

静岡県静岡市生まれ。植物に不思議な縁や力を感じ、植物が私たち人間に送るメッセージとは何かを探求し、創作活動を行っている。富士の山ビエンナーレ（静岡県）他。

作品タイトル **ここで、咲く。**

設置駅 **代官町駅・塩郷駅（駅舎）**

観賞用に導入されたヒメジョオンは、いつしか雑草化し、鉄道の線路沿いに広がっていったそうだ。きっと大井川鐵道にも、白く小さな花をいくつも咲かせたであろう。
しかし、今では我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれがあるとも言われている。
今回、何も言わず全てを受け入れていくヒメジョオンに寄り添って制作した。

クロダユキ

1979年生まれ。静岡県在住。2008年より独学で撮り始める。写真を通し、物や人の気配、自然の畏怖、感情やサインを見つめ続けている。

作品タイトル **記憶の気配**

設置駅 **塩郷駅エリア（佐澤薬師堂）**

六十年毎、庚子年に行われる大祭をきっかけに、
この地にひよんどりが復活した。
大祭もひよんどりも、その真を知るものはいるのだろうか。
記憶は変容し、また別の記憶を成してゆく。
水のように移ろい、重なり、剥がれ、薄らいでゆく。
一つの集落の記憶を、薬師の泉に映した。

常葉大学造形学部

常葉大学造形学部夏池ゼミ2年生。
アート表現コースと環境デザインコース所属のグループ。

作品タイトル **星空のSL**

設置駅 **抜里駅エリア(ぬくりプラザ)**

川根地区だからこそ見ることができる満天の星を数多くの灯籠で表し、上部では大井川鉄道のシンボルであるSLがこれから先も走り続けてほしいという願いを込めて駆け上がる様子を表現。水面に灯籠の明かりとSLを映すことでより幻想的な世界を演出した。

TOPICS

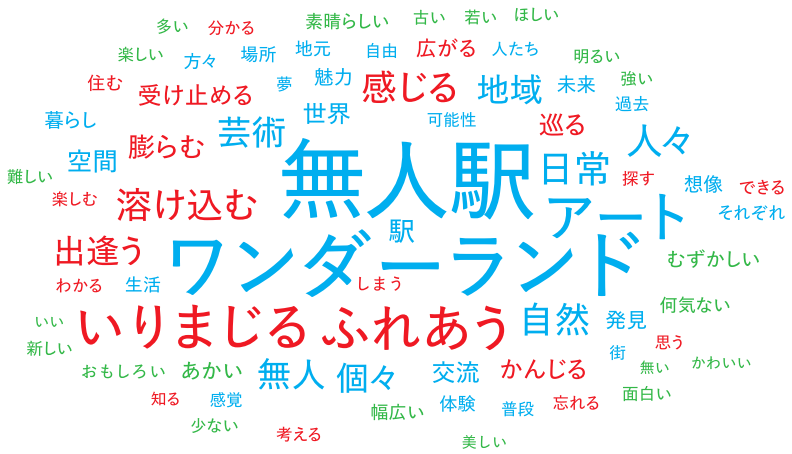
「無人駅周辺でCafé巡り」制作

芸術祭と一緒に無人駅エリアのカフェ巡りも楽しんで欲しいと学生目線でパンフレットの制作をしてくれました。お店選びから取材、冊子デザインまで全て学生が。芸術祭会期中に配布しました。

アートを道しるべに、豊かな人達の暮らすワンダーランドへの入り口を開けていく当芸術祭の合言葉「ようこそ 無人駅の先のワンダーランドへ」。今回来訪された方々へのアンケートにて「無人駅の先のワンダーランドとは何か」をお聞きしました。以下は当芸術祭の事業評価報告書の抜粋です。

「無人駅の先のワンダーランド」という文言は、本芸術祭のキー・メッセージである。（中略）鑑賞者の興味の先が「自身の内的感覚の変化や創造の世界」が主であったが、2020年は大幅に「地域、場、日常」が増えていることがわかる。これは、期待感の項目でも同様の結果が出ており、芸術祭をきっかけに興味の先が確実に地域への広がりを見せている。テキストマイニング分析結果を見ると「無人駅の世界」から「アートと地域」へ、また品詞は形容詞から動詞へと変化しており、範囲の広がりとアクティブワード（自分の参加する気持ち）の傾向が見られる結果となった。

テキストマイニング結果



（抜粋：UNMANNED無人駅の芸術祭／大井川2020　事業評価報告書・一般財団法人CSOネットワーク）

お問合せ：NPO法人クロスメディアしまだ
〒427-0029 静岡県島田市日之出町2-3　TEL&FAX: 0547-35-0018　Mail: seminar@cms.or.jp

最新情報はFaceBook・Instagram・Twitterで「UNMANNED無人駅の芸術祭」を検索

2019 SHIZUOKA 静岡県文化プログラム

静岡県文化プログラム　2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、オリンピック憲章で開催が定められた「文化プログラム」が、日本全国で開催されます。静岡県文化プログラム推進委員会は、文化・芸術振興や文化・芸術による地域・社会課題対応を目指して、様々な団体等との協働による取組を進めています。　https://shizuoka-ac.org/